

* 民国連携による小学生への森林学習活動の取組支援 *

1 はじめに

県北広域振興局林務部では、これまでも管内小中学生の森林学習活動を支援してきましたが、当普及区では、指導員の異動等によりその活動レベルを一定に維持することに苦慮していました。

そのため、平成28年度の三陸北部森林管理署久慈支署(以下「久慈支署」という。)主催の会議において、森林環境教育にも取り組んでいる久慈支署に連携を提案したところ、快諾を得て取組むこととなりましたので、初連携の様子を御紹介します。

2 事前の準備

民国連携による初の森林学習活動は、5月12日に洋野町立向田小学校(全校児童22名)が行う森林愛護少年団結団式及び森林学習会が舞台となりました。

同小学校との事前打合は、久慈支署、町の担当者とともに2回行い、「校地内の植物の名前と特徴」及び「森林と海のつながり」等の理解を進めることを柱に取組むこととしました。

まずは、児童生徒に身近な植物に興味を持ってもらうため、芽吹きが遅い樹木の他、校地で盛んに咲いている草花を対象に、久慈支署で豊富な知識を持つ担当者が中心となって作成いただいた資料を共有しました。加えて、森林と海とのつながりを理解してもらうため、校庭と森林の土壌をペットボトルに詰め、水の浸透状況を確認する実験が提案され、当日の動きなどを確認しました。

3 活動の状況

当日は、新入生6名を迎えた結団式の後、4班に分かれ森林学習活動を行いました。

また、民国連携のおかげで、各班に、講師2名ずつと十分な人員を配置して臨むことができました。

児童生徒らは、講師の話に耳を傾けながら、楽しんで観察し、身近な植物に興味を持つ意識が醸成されました。

また、ペットボトルを使った実験では、森林土壌は透明で定量の水がゆっくりと流出した一方、校庭の土壌は濁った水が滞留し、児童に森林の大切さをわかりやすく理解させるものとなりました。

今回の活動は、校長先生をはじめ、関わった先生方からも、全般を通して高い評価をいただきました。

4 おわりに

当普及区では、今後、児童生徒に限らず、様々な普及啓発活動が計画されています。

今後も、民国連携により、お互いの機会を捉えて、将来を担う児童生徒やそれに係る大人も含めた森林学習活動が十分な成果をあげ、森林・林業の大切さについて理解が進むよう普及啓発に努めてまいります。

